

# ほころぶ「200年に1度」

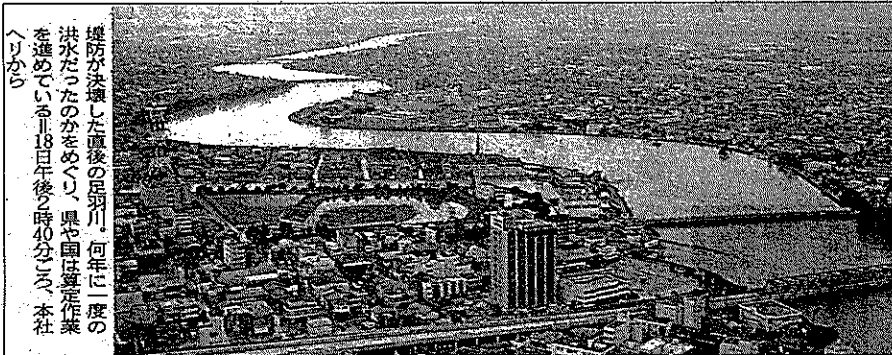


わずか数時間に記録的な雨が降った福井豪雨。県は当初「200年に一度の洪水」という見解を示してきたが、ここにきて撤回している。河川整備計画の根拠となっていた二日間の雨量ではなく、ピークとなった一時間の雨量(時間雨量)では引き出した数字だったから。短時間に大量の雨が降った今回の豪雨は、国の基準の限界を示すとともに「何年に一度の洪水」という従来の表現も崩し始めている。

## 「特異ケース」は算出困難

## 県、当初見解を撤回

それが本当? 「福井豪雨の後、「河」り歩きしてしまっている。国土交通省福井河川整備事務所は、当初「200年に一度の洪水」という見解を示してきたが、ここにきて撤回している。



堤防が決壊した直後の足羽川。何年に一度の洪水だったのかをめぐり、県や国は算定作業を進めている。18日午後2時40分ごろ、本社へりから

川国道事務所は、当初「200年に一度の洪水」という見解を示してきたが、ここにきて撤回している。国土交通省福井河川整備事務所は、当初「200年に一度の洪水」という見解を示してきたが、ここにきて撤回している。

この度の豪雨は、河川整備計画の根拠となる「確率年」という数値がベースとなっていた。ダム建設などの際、住民向けに「河川の安全度を分かりやすく説明するため(同省河川情報対策)などに使う数値で、同所長はあくまで「物差し」の一つ。例えば「百年に一度」の洪水でも、十年に一回起きないという意味ではない」と説明する。

足羽川の場合、確率年は百五十分の一。九頭竜川流域委員会でも「百五十年に一度の洪水に備える」という前提で整備計画の議論が続いている。

異なる物差し  
確率年、過去の最大雨量や降雨パターンなどのデータを基に、特殊な計算式に当てはめて算出する。国の基準に基づき、

足羽川の場合は二日間の総雨量(二日雨量)を前にして確率年を算出している。整備計画が策定された後、福井豪雨直後、管理者は「200年に一度の洪水」と説明していたが、その後「誤解を招く数字だった」として撤回した。塚本勝典課長によると、これは「短時間での集中豪雨は、特異ケースだったため、整備計画とは異なる物差し」の「ピーク時の時間雨量で概算してしまっただけ」という。

このように、根拠となるデータの取り扱いは、よって評価が変わることから気象関係では「何年に一度」という表現は使わない(福井地方気象台)。気象台発表では「観測史上何番目の降水量」となるのが常だ。

残る課題  
確率年は住民向けに示す数値であると同時に、堤防整備やダム計画の推進、洪水後の検証など、河川計画のほとんどで目安となっている。国土交通省治水課は「調整しても時間雨量と二日雨量では、結果的に数値が異なる」とは認める。説明。短時間降雨が集中した福井

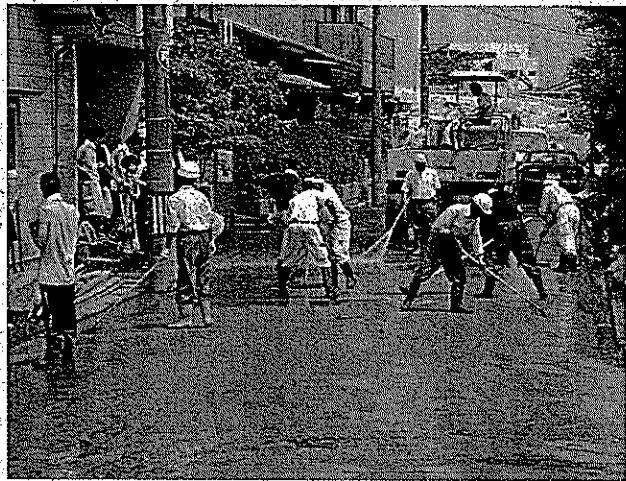
豪雨のケースでは、時間雨量と二日雨量で確率年を算出する作業を進めている。福井河川国道事務所も「複数の雨量データを併用して、今後の整備計画につなげたい」として、独自の分析を急いでいる。

ただ、過去のデータはすべて二日雨量で蓄積してあるため、比較検証に難しさがあるという。福井河川国道事務所は、時間がかかる見通しだ。

2004.07.24

平成16年 7月24日刊  
福井 新聞

足羽川堤防が決壊した場所(写真後方)から大量の濁流が押し寄せた福井市春日1丁目。道路に積もった泥や家財道具はほぼ取り除かれた—23日午後1時10分ごろ



足羽川堤防が決壊した場所(写真後方)から大量の濁流が押し寄せた福井市春日1丁目。道路に積もった泥や家財道具はほぼ取り除かれた—23日午後1時10分ごろ

足羽川整備計画

短時間豪雨想定せず

国基準は2日間雨量

福井豪雨のように短時間で大量の雨が降った場合、国のマニュアルに基づいて策定されて...

福井豪雨

5市町に生活再建法

池田の避難指示解除

全国の主な河川は、同省川局の選定によるマニアル「河川砂防技術基準」に沿って整備計画が策定されている。

から算出した「確率年」と呼ばれる数値を使い、最高で二百年以上に一度の洪水に備えた整備を行う。さらに、基準を上回る河川との戦後最大雨量に耐え得る整備が求められている。

整備計画は河川の規模に応じて五段階のランクが決められているが、降雨量は一九八八年度から、このうち八八が十...

整備計画は河川の規模に応じて五段階のランクが決められているが、降雨量は一九八八年度から、このうち八八が十...

小規模河川と通って川幅があり、延長も長い。流量の急激な増加が起きやすいのが根拠だ。

嶺北地方を襲った福井「援法」を適用すると発表。仮設住宅五棟を週明けに...

が少なくして、解除後、帰宅、住宅の復旧未進行避難勧告に戻った。避難...

被害状況

- 主な被害 死者3人▽行方不明者2人
▽重軽傷者17人▽住宅全壊69世帯、半壊141世帯
避難勧告 △池田町下小畑、上小畑、千代谷、大本、金見谷▽大野市宝蔵寺▽鯖江市上河内町、金谷町、西袋町椿坂▽今立町新堂

お とこブコロは、旅の空? 香港旅特集

福井新聞 発行所 福井新聞社 福井市大和田町66 郵便番号:910-8552 電話:0776(57)5111 福井新聞社 2004 読者センター 57-5140



足羽川決壊現場を視察する委員ら。25日、福井市春日で。

# ダム位置変更必要ない

## 福井豪雨 足羽川委員が視察

集中豪雨で堤防が決壊 整備計画に流域住民や学識経験者の意見を反映させた福井県北部の足羽川(あすわ)川のダム計画などを審議している九頭竜川流域委員会のメンバーが二十五日、福井市と美山町の洪水現場を視察した。

同委員会は、足羽川を含む九頭竜川水系の河川整備計画に流域住民や学識経験者の意見を反映させようと、県と国が二〇〇二年五月に設置。足羽川の治水策については池田町にダムを建設する案を中心に検討が進められている。

委員長の池淵周一(京大)は「現時点では、現在、策定中のダム計画の抜本的な見直しはない」との見解を示した。

足羽川の治水を含む河川整備計画原案は秋ごろまでにまとまる見通し。一方、福井県内の各被災地では、被災から一週間となったこの日も県内外から駆け付けたボランティアが復旧作業を支援。県によると、二十四、二十五の両日に入ったボランティアは延べ約一万七千人。避難勧告は鯖江市と大野市、池田町の二百三十世帯で依然、出されたままになっている。

平成16年7月26日 朝刊  
新 聞  
中 日

# 高校生ら3人死傷

## 福井で少年 九頭竜川堤防で転落

二十五日午前二時三十分ごろ、福井市漆原町の九頭竜川堤防上を通る県道で、丸岡町の飲食店員少年(17)の軽乗用車が約十以下の河川敷に転落。後部座席の松岡町松ヶ原三ノ一〇五、高校二年生中川哉也さん(16)が頭を強く打ち、搬送先の病院で調べている。

約二時間三十分後に死亡した。少年と助手席にいた福井市の男子高校生(17)は、いずれも軽傷。三人はコンビニに買い物に行く途中だった。福井署では、少年がハンドル操作を誤ったとみ

平成16年7月26日 朝刊  
新 聞  
福 井 県 民

# 福井 山間部 復旧に遅れ

福井豪雨から八日目を迎えた二十五日、猛暑に見舞われた県内の各被災地では、住民と大勢のボランティアによる復旧作業が引き続き、繰り広げられた。ごみの回収作業などは進んだが、土砂被害が大きかった山間部では避難勧告が続いている。

県災害対策本部によると、この日も県内外から七千五百人を超えるボランティアが被災現場に入り、汗まみれになりながら泥やがれきの撤去作業、家財道具の後片付けなどに取り組んだ。近隣十一府県から約三百台の清

## 福井豪雨被害

- ④ 頑張り美山
- ③ 農家が悲鳴
- ② 元気くれた

掃車も投入され、福井市町下池田地区(千代谷、みみの回収が進められた。美山町の国道476号、池田町の県道松ヶ寺、鯖江市河和田地区の一部(金谷、橋坂、上河内)に出されている。

同日午後六時までにまとめた県内の被害状況は、死者二人、行方不明者一人、住宅被害は全壊六十九世帯、半壊百四十九世帯、一部破損九十九世帯、床上浸水四千三百二十九世帯、床下浸水九千八百四十一世帯。

平成16年7月26日 朝刊  
新 聞  
福 井 県 民

# も直見ダム川羽足

## 福井豪雨 九頭竜川流域委が示唆

九頭竜川流域委員会は二十五日、福井豪雨で被害を受けた足羽川流域の福井市と美山町内で現地調査を実施。池淵周一委員長（京都大水源研究センター長）は、今回の豪雨による水量が、これまでの治水対策で検討してきた毎秒二千百トを超えていた場合、池田町内に検討している「足羽川ダム」の規模など建設方式の見直しもあることを示唆した。一方、建設位置などについては変更する考えがないことを強調し、当初方針通り今秋までに結論を出す意向を示した。

## 美山仮設住宅建設始まる

家が全半壊した被災地住民のための仮設住宅の建設は、同日から美山町で本格化した。同町蔵作では、集落内の公園に希望のあった四戸の仮設住宅を造る。公園には蔵作川の氾濫で流れ込んだ土砂が堆積しており、前日からシヨベルカーなどで土砂を取り除く作業が進んだ。整地が終わった所では、県の職員らが住宅の位置を仮に示すロープを張った。

県災害対策本部による調査によると、美山町蔵作では、集落内の公園に希望のあった四戸の仮設住宅を造る。公園には蔵作川の氾濫で流れ込んだ土砂が堆積しており、前日からシヨベルカーなどで土砂を取り除く作業が進んだ。整地が終わった所では、県の職員らが住宅の位置を仮に示すロープを張った。

福井、鯖江市や池田町でも入居希望者に説明会を開くなど、仮設住宅建設への準備を進めている。ボランティアの投入もさらに進み、この日は各被災地に七千五百五十六人が駆けつけた。十九日からは七日間のボランティアは、累計で三万八百二十五人に達した。九十九人が避難生活を送っていた池田町下池田地区では、ボランティアの集中投入で復旧が進み、避難勧告は依然として発令されているもの同日夜、二十二人が五日ぶり自主的に自宅に戻った。断水は鯖江市上河内町と尾花町で解消。残る今立、池田町でも、二十六日午前には復旧する見通しだ。同日午後六時現在

の被害状況は次の通り。

- ▼避難勧告 池田町下小畑・土小畑・千代谷・大本・金見谷、大野市宝慶寺、鯖江市上河内町・金谷町・西袋榎坂
- ▼孤立集落 美山町赤谷
- ▼避難状況 福井市27人、大野市14人、鯖江市14人、美山町41人、今立町23人、池田町68人（県災害対策本部まとめ）

朝刊 平成16年7月26日  
福井新聞

九頭竜川流域委

部子川ダム方向性妥当

現場 現在の洪水想定不安視 視察



足羽川堤防の決壊現場を視察する委員たち。福井市春日1丁目

九頭竜川水系の河川整備の任りを審議している九頭竜川流域委員会(池田潤一委員長)のメンバーが二十五日、福井市の被災害地を視察した。委員からは、被災現場を視察した。委員からは、被災現場を視察した。委員からは、被災現場を視察した。

被災者に励ましの声

山崎官房副長官が視察



被災現場を視察する山崎正昭官房副長官(右)。鯖江市片山町で

県選出の参議議員山崎正昭官房副長官が二十五日、福井市の被災地を視察した。山崎官房副長官は、被災現場を視察した。委員からは、被災現場を視察した。

方向性は間違っていないと思う。(中流部ダム) サイトを設ける。元の計画に戻すことは考えられない。また、他の委員からは「これだけ大きな水が大量に溢れているを見れば、山の手入れなどについても議論を加える必要があるかもしれない。」と語った。

「どんな雨でも大丈夫」と、福井市民は納得できない。この程度までの洪水被害を我慢するべきではない。九頭竜川水系の河川整備の任りを審議している九頭竜川流域委員会(池田潤一委員長)のメンバーが二十五日、福井市の被災地を視察した。

濁流



4

ダム論議 抜本見直しも



足羽川ダムの建設予定地(後方が年代谷集落)。今回の水害で洪水の想定やダム本体の見直しも迫られた。池田町千代谷で、本社へリウガ(左)から(福田正昭議員)

本方式で委員の意見が二分している。側面はそれぞれ分している。側面はそれぞれ分している。側面はそれぞれ分している。側面はそれぞれ分している。側面はそれぞれ分している。

仮設住宅建設へ 整地作業が完了 復興住宅の建設は、河和田地区全域で大規模の水が使われ、一時的な水不足に陥る可能性がある。河和田地区の復興住宅の建設は、河和田地区全域で大規模の水が使われ、一時的な水不足に陥る可能性がある。

大野市がバ 大野市は二十三日まで、福井市は二十五日まで、被災を受けた美山町の復興作業が完了した。被災を受けた美山町の復興作業が完了した。被災を受けた美山町の復興作業が完了した。

平成16年7月26日 福井新聞

河和田の復旧 上水道が復旧 福井市は二十五日、福井市の被災地を視察した。委員からは、被災現場を視察した。委員からは、被災現場を視察した。



廃棄物搬出手助け トラックなど20台 地区内の廃棄物運び出す人たちは美山町で 被災を受けた美山町の復興作業が完了した。被災を受けた美山町の復興作業が完了した。被災を受けた美山町の復興作業が完了した。